

枚方市商工だより

(2010年10月)

[主な内容]

地域経済動向調査VOL-84 (2010年7~9月)

枚方市

【調査の概要】

本調査は、枚方市の委託事業として北大阪商工会議所が実施しているもので、地域経済の総合的な動向を把握することで、産業振興のための基礎資料として利用するとともに、地域の経営者等へ情報提供している。

調査対象は、製造業、建設業、卸売業、小売業、飲食業、サービス業の6業種で、市内の主要な産業を網羅している。

企業規模は、製造業は全数を、その他の業種は、従業員規模5人以上の事業所から無作為抽出している。

調査方法は、往復はがきによるアンケート方式で、2010年10月上旬に977社に発送し、回答期限までに238社から回答が得られた。

全体の回答率は24.4%で、業種別・規模別回答状況は、表1、表2の通りである。

表1. 業種別回答状況

集約業種名		母集団	回答数	回答率
製造業	食料・飲料	37	8	21.6
	繊維・衣服	60	11	18.3
	木材・家具	17	2	11.8
	紙・出版・印刷	36	5	13.9
	化学・プラスチック	56	14	25.0
	鉄鋼・非鉄金属	28	12	42.9
	金属製品	62	16	25.8
	一般機械	69	14	20.3
	電気機械	37	10	27.0
	その他の製造業	41	13	31.7
製造業計		443	105	23.7
非製造業	建設業	108	37	34.3
	卸売業	60	10	16.7
	小売業	185	38	20.5
	飲食店	61	12	19.7
	サービス業	120	36	30.0
	非製造業計		534	133
合計		977	238	24.4

表2. 規模別回答状況

規模別	製造業			非製造業			全体		
	母集団	回答数	回答率	母集団	回答数	回答率	母集団	回答数	回答率
1～3人	95	5	5.3	27	9	33.3	122	14	11.5
4～9人*	102	15	14.7	224	55	24.6	326	70	21.5
10～19人	79	22	27.8	151	30	19.9	230	52	22.6
20～29人	28	8	28.6	57	17	29.8	85	25	29.4
30～49人	48	22	45.8	40	8	20.0	88	30	34.1
50～99人	35	14	40.0	19	7	36.8	54	21	38.9
100～199人	36	15	41.7	11	5	45.5	47	20	42.6
200～299人	7	1	14.3	3	2	66.7	10	3	30.0
300人以上	13	3	23.1	2	0	0.0	15	3	20.0
合計	443	105	23.7	534	133	24.9	977	238	24.4

*)非製造業の規模4～9人は5～9人である。

【 概要 】

前期と比べ、製造業の生産額、出荷額は業種によってばらつきがみられる。製品在庫額は改善している。前年同期比では、生産額は回復がみられる。製品販売価格は、D.Iのマイナス幅が拡大している。設備投資額に大きな変化はない。

非製造業の売上額には改善がみられるが、採算状況は厳しい。前年同期比では、売上額、客数・販売先数には回復がみられる。

向こう3ヵ月の景気見通しは、製造業、非製造業ともに、好転見通しは少数である。

政府は11月の月例経済報告で、「景気は、このところ足踏み状態となっている」という基調判断を据え置いた。輸出についても、前月に引き続き「このところ弱含んでいる」としている。先行きについては、「当面は弱めの動きがみられるものの、海外経済の改善や各種の政策効果などを背景に、景気が持ち直していくことが期待される。一方、海外景気の下振れ懸念や為替レート・株価の変動などにより、景気がさらに下押しされるリスクが存在する。また、デフレの影響や、雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることにも注意が必要である」としている。

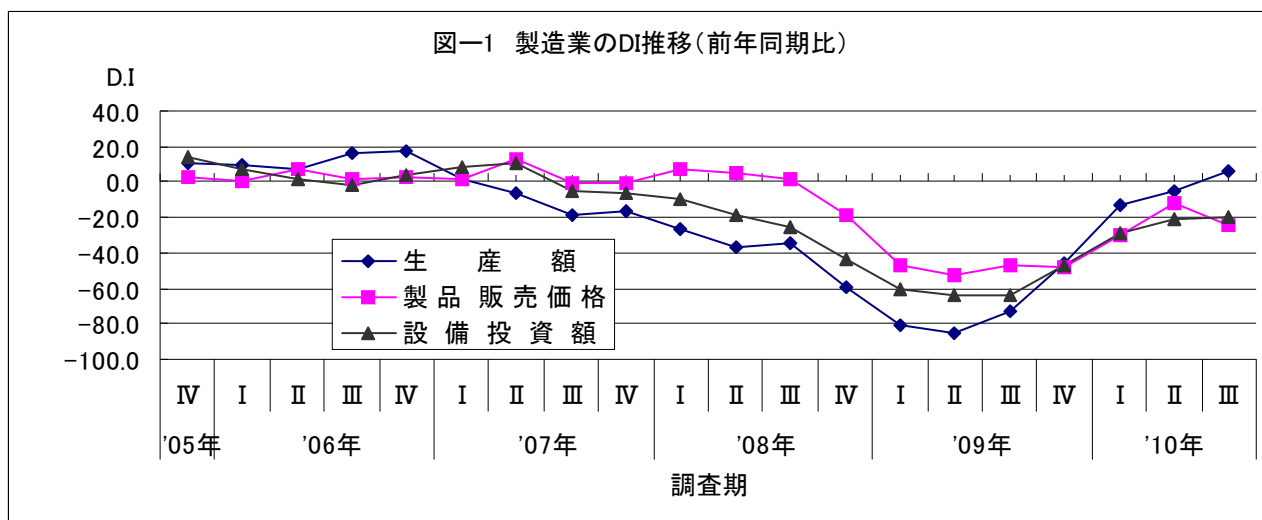
総務省が労働力調査において発表した10月の完全失業率は5.1%で、前月に比べ0.1P(ポイント)上昇した。また、厚生労働省の発表した10月の有効求人倍率は0.56倍で、前月に比べ0.01P上がっている。

帝国データバンクによると、2010年10月の倒産件数は960件で、前月比1.8%の増加となったものの、前年同月に比べると、10.3%の減少となり、14ヵ月連続で前年同月を下回った。うち、不況型倒産は798件である。構成比は83.1%で、前月に比べると0.5P下回ったものの、前年同月比では0.7Pの増加となっており、2009年6月以来、17ヵ月連続で80%台の高水準となった。規模別にみると、中小企業は955件で全体の99.5%を占める。小規模企業は808件で、全体の84.2%を占め、小規模倒産が高水準で推移している。内需低迷の影響を受け、小売、運輸業などでの零細業者の倒産が増加したことが要因となっている。景気D.Iは31.5Pで、3ヵ月連続で悪化した。「製造」「小売」「サービス」等の業界すべてが、10ヵ月ぶりにそろって後退している。

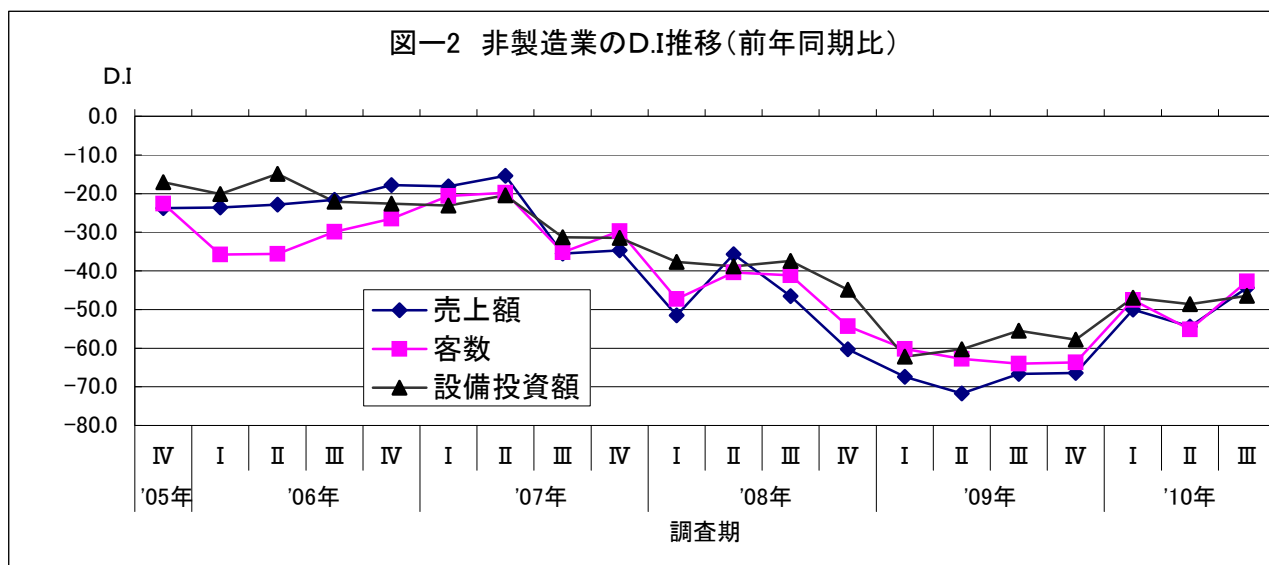
経済産業省は緊急保証制度の来年3月末での打ち切り方針を決定した。零細企業向けの小口融資に限り制度は継続され、政府系による借り替えの積極受け入れの措置もとられるが、緊急保証制度の打ち切りが今後どのように影響するかが注目される。

2010年第Ⅲ四半期（7～9月）の枚方市の製造業の生産額、出荷額は業種によってばらつきがみられる。製品在庫額は改善している。向こう3ヵ月の景気見通しは、好転する見方は少数である。

前年同期比では、生産額には回復がみられる一方、製品販売価格は、D.Iのマイナス幅が拡大している。設備投資額に大きな変化はない。



非製造業の売上額には改善がみられるが、採算状況は依然として厳しい。資金繰りは、僅かながら D.I のマイナス幅が縮小している。向こう3ヵ月の景気見通しは、好転見通しは少数である。前年同期比では、売上額、客数・販売先数には回復がみられる。



(注) 景気動向指標 (D. I = Diffusion Index)
 = (増加・好転した企業の割合) - (減少・悪化した企業の割合)

表3 総括表(D.Iの推移)

景気動向指標			'05年				'06年				'07年			
			I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
製造業	前期比	生産額	-0.9	-13.5	-1.9	15.8	0.0	-2.1	14.9	20.0	-7.4	-17.3	-17.4	-1.1
		出荷額	-4.7	-14.9	2.0	19.4	-2.4	-4.3	20.4	19.1	-5.3	-14.4	-16.5	-1.1
		製品在庫額	-12.7	-13.1	-10.0	-5.5	-6.7	-14.6	-7.4	-9.0	-6.6	-6.5	-12.8	-6.0
		原材料仕入額	66.0	64.4	51.0	46.7	53.2	65.3	66.7	54.3	57.9	64.6	55.6	62.8
		製品販売価格	-1.9	-8.0	-14.7	-1.1	-1.3	4.2	1.0	-3.3	-4.3	5.3	0.0	8.0
		採算状況	-35.2	-36.0	-32.7	-12.8	-12.2	-33.3	-28.0	-19.1	-33.7	-33.7	-33.0	-48.3
		資金繰り	-8.5	-17.0	-9.7	2.2	0.0	-13.8	-5.1	-5.4	-14.9	-6.2	-15.4	-25.0
		受注状況	-5.7	-21.3	-8.7	7.5	6.1	-1.0	6.9	9.6	-10.5	-13.4	-27.2	-5.7
		向こう3カ月の景況	-13.0	-11.4	1.9	2.2	8.6	8.4	10.9	-2.1	-5.4	-4.1	-7.8	-24.4
		業前同期年比	生産額	1.9	-16.9	-9.7	10.6	9.8	7.3	16.2	17.0	1.1	-6.1	-18.5
製品販売価格	-6.7		-2.3	-16.8	3.2	0.0	7.4	2.1	3.3	1.1	12.6	-1.1	-1.1	
設備投資額	-5.9		4.7	1.0	14.0	7.5	2.2	-2.0	4.4	7.9	10.6	-5.6	-5.9	
非製造業	前期比	売上額	-33.8	-34.5	-24.8	-14.3	-23.9	-6.4	-21.7	-9.3	-20.2	-14.4	-22.6	-25.2
		採算状況	-43.8	-41.5	-51.9	-26.6	-43.3	-35.0	-39.1	-30.7	-34.4	-30.3	-43.1	-46.9
		資金繰り	-31.3	-26.4	-30.3	-18.2	-22.7	-25.4	-27.1	-20.5	-25.4	-18.0	-29.8	-30.6
		向こう3カ月の景況	-34.7	-34.5	-27.5	-19.9	-10.7	-22.8	-23.9	-25.8	-26.0	-30.1	-34.1	-47.3
		業前同期年比	売上額	-29.2	-38.7	-31.4	-23.7	-23.6	-22.9	-21.7	-17.8	-18.1	-15.4	-35.5
客数・販売先数	-29.8		-35.8	-29.7	-22.6	-35.8	-35.6	-29.9	-26.5	-20.6	-19.8	-35.2	-29.7	
設備投資額	-31.9		-31.9	-16.3	-17.0	-20.2	-14.9	-22.1	-22.6	-23.1	-20.5	-31.3	-31.5	

景気動向指標			'08年				'09年				'10年			
			I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
製造業	前期比	生産額	-26.9	-33.6	-33.0	-56.1	-70.8	-55.7	-27.8	-20.4	-21.0	-5.1	-12.4	
		出荷額	-22.8	-28.0	-35.4	-58.8	-68.1	-58.5	-30.8	-19.6	-18.3	-5.0	-9.6	
		製品在庫額	-12.5	-14.3	-9.7	-27.5	-23.3	-21.8	-19.6	-11.0	-17.0	-5.3	-3.0	
		原材料仕入額	63.0	81.3	67.7	6.3	-17.0	-1.9	7.6	-2.8	19.2	32.3	18.3	
		製品販売価格	4.3	3.8	1.0	-19.8	-38.4	-38.7	-27.4	-31.4	-21.2	-23.5	-18.8	
		採算状況	-35.9	-54.2	-56.7	-63.2	-74.6	-63.6	-46.3	-31.5	-38.1	-33.7	-32.4	
		資金繰り	-16.3	-27.1	-33.0	-37.2	-52.7	-45.3	-33.6	-28.0	-27.9	-21.4	-24.3	
		受注状況	-23.7	-38.7	-43.3	-67.5	-79.8	-69.2	-34.3	-29.9	-21.9	-10.9	-13.3	
		向こう3カ月の景況	-30.0	-34.3	-48.5	-77.0	-67.3	-38.3	-33.3	-30.6	-30.5	-5.0	-28.8	
		業前同期年比	生産額	-26.1	-36.4	-34.0	-59.6	-80.5	-84.9	-72.9	-45.8	-13.3	-5.0	5.7
製品販売価格	7.7		4.7	2.1	-18.6	-47.3	-52.8	-46.7	-47.6	-29.8	-12.1	-24.8		
設備投資額	-10.2		-19.2	-26.0	-43.2	-60.9	-64.1	-63.4	-46.6	-29.0	-20.6	-20.2		
非製造業	前期比	売上額	-42.2	-40.3	-38.4	-52.7	-66.7	-47.9	-57.9	-43.5	-43.8	-45.7	-34.6	
		採算状況	-55.6	-57.0	-55.5	-66.4	-73.9	-60.0	-69.9	-54.4	-54.4	-54.3	-51.1	
		資金繰り	-37.3	-38.9	-43.2	-44.3	-56.3	-46.2	-50.4	-40.6	-41.5	-46.5	-40.9	
		向こう3カ月の景況	-54.1	-52.8	-60.0	-74.0	-67.4	-50.7	-51.9	-63.7	-46.3	-45.5	-48.1	
		業前同期年比	売上額	-51.5	-35.7	-46.5	-60.3	-67.4	-71.7	-66.7	-66.4	-50.0	-54.4	-44.4
客数・販売先数	-47.3		-40.4	-41.1	-54.3	-60.2	-62.7	-64.0	-63.7	-47.5	-55.1	-42.7		
設備投資額	-37.7		-38.8	-37.4	-44.9	-62.2	-60.3	-55.5	-57.8	-47.0	-48.6	-46.5		

I. 業種別の景気動向

1. 製造業の景気動向

①【生産額】

前期と比べた当期（2010年7～9月）の生産額は、増加22.9%、横這41.9%、減少35.2%となっている。総合D.Iはマイナス12.4Pである

業種別にみると、食料・飲料は横這と減少が拮抗している。繊維・衣服は、9割の企業が減産している。紙・出版・印刷はD.Iのマイナス幅が縮小している。化学・プラスチックでは増産企業が増え、D.Iはマイナスからプラスへ転じている。電気機械では横這企業が6割を占めている。

前年同期比では、増加40.0%、横這25.7%、減少34.3%で、総合D.Iはプラス5.7Pである。D.Iは前回のマイナスからプラスへと転じている。

業種別にみると、食料・飲料では横這が6割以上を占めている。繊維・衣服では増産企業はみられず、減産企業が9割を占めている。化学・プラスチックはD.Iがマイナスからプラスへ転じている。鉄鋼・非鉄金属では8割以上の企業が増産している。一般機械では半数の企業が増産している。電気機械では7割の企業が増産している。その他の製造業では、D.Iがプラスになっている。（表4）

表4. 生産額

業 種	当期の生産額は										
	前期に比べ					前年同期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	件数	増加	横這	減少	D.I	
製 造 業	食料・飲料	8	0.0	50.0	50.0	-50.0	8	12.5	62.5	25.0	-12.5
	繊維・衣服	11	0.0	9.1	90.9	-90.9	11	0.0	9.1	90.9	-90.9
	木材・家具	2	50.0	0.0	50.0	0.0	2	50.0	0.0	50.0	0.0
	紙・出版・印刷	5	20.0	40.0	40.0	-20.0	5	20.0	20.0	60.0	-40.0
	化学・プラスチック	14	28.6	57.1	14.3	14.3	14	42.9	42.9	14.3	28.6
	鉄鋼・非鉄金属	12	33.3	50.0	16.7	16.7	12	83.3	8.3	8.3	75.0
	金属製品	16	12.5	43.8	43.8	-31.3	16	25.0	31.3	43.8	-18.8
	一般機械	14	35.7	28.6	35.7	0.0	14	50.0	21.4	28.6	21.4
	電気機械	10	30.0	60.0	10.0	20.0	10	70.0	10.0	20.0	50.0
	その他の製造業	13	30.8	46.2	23.1	7.7	13	38.5	30.8	30.8	7.7
製造業計	105	22.9	41.9	35.2	-12.4	105	40.0	25.7	34.3	5.7	

②【出荷額】

当期の出荷額は、増加 24.0%、横這 42.3%、減少 33.7%となっている。総合 D.I は マイナス 9.6P である。

業種別では、食料・飲料は横這と減少が拮抗している。繊維・衣服は 9 割の企業が減少している。化学・プラスチック、一般機械では、D.I がマイナスからプラスへ転じている。鉄鋼・非鉄金属では D.I のプラス幅が拡大している。金属製品では D.I がマイナスになっている。電気機械では横這企業が 8 割を占めている。

(表 5)

表 5. 出荷額

業 種	出荷額は 前期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	
製 造	食 料 ・ 飲 料	8	0.0	50.0	50.0	-50.0
	繊 維 ・ 衣 服	10	0.0	10.0	90.0	-90.0
	木 材 ・ 家 具	2	50.0	0.0	50.0	0.0
	紙 ・ 出 版 ・ 印 刷	5	20.0	40.0	40.0	-20.0
	化 学 ・ プ ラ ス チ ッ ク	14	35.7	50.0	14.3	21.4
業	鉄 鋼 ・ 非 鉄 金 属	12	41.7	41.7	16.7	25.0
	金 属 製 品	16	12.5	43.8	43.8	-31.3
	一 般 機 械	14	42.9	28.6	28.6	14.3
	電 気 機 械	10	10.0	80.0	10.0	0.0
	そ の 他 の 製 造 業	13	30.8	46.2	23.1	7.7
	製 造 業 計	104	24.0	42.3	33.7	-9.6

③【製品在庫額】

前期と比べた製品在庫額は、不足 5.9%、適正 85.1%、過剰 8.9%となっている。適正水準の企業が大多数を占めている。総合 D.I は マイナス 3.0P である。

繊維・衣服、木材・家具では全ての企業が適正水準である。化学・プラスチック、鉄鋼・非鉄金属では 9 割以上が適正である。金属製品では D.I がプラスからマイナスに転じているものの、適正水準の企業が大半を占めている。

一般機械は前期と変化がない。

(表 6)

表 6. 製品在庫額

業 種	在庫額は 前期に比べ					
	件数	不足	適正	過剰	D.I	
製 造	食 料 ・ 飲 料	8	0.0	75.0	25.0	-25.0
	繊 維 ・ 衣 服	9	0.0	100.0	0.0	0.0
	木 材 ・ 家 具	2	0.0	100.0	0.0	0.0
	紙 ・ 出 版 ・ 印 刷	5	0.0	80.0	20.0	-20.0
	化 学 ・ プ ラ ス チ ッ ク	14	0.0	92.9	7.1	-7.1
業	鉄 鋼 ・ 非 鉄 金 属	12	8.3	91.7	0.0	8.3
	金 属 製 品	16	6.3	75.0	18.8	-12.5
	一 般 機 械	14	14.3	78.6	7.1	7.1
	電 気 機 械	8	12.5	87.5	0.0	12.5
	そ の 他 の 製 造 業	13	7.7	84.6	7.7	0.0
	製 造 業 計	101	5.9	85.1	8.9	-3.0

④ 【原材料仕入額】

前期と比べた原材料仕入額は、値上がり 24.0%、横這 70.2%、値下がり 5.8%である。総合 D.I はプラス 18.3P で、D.I のプラス幅が縮小している。

業種別では、木材・家具では全ての企業が横這である。紙・出版・印刷、電気機械は横這が 8 割を占めている。鉄鋼・非鉄金属では値上がり企業と横這企業が拮抗している。一般機械は横這企業が大多数を占めている。(表 7)

表 7. 原材料仕入額

業 種	仕入額は 前期に比べ					
	件数	値上	横這	値下	D.I	
製 造 業	食 料 ・ 飲 料	8	12.5	75.0	12.5	0.0
	繊 維 ・ 衣 服	10	20.0	60.0	20.0	0.0
	木 材 ・ 家 具	2	0.0	100.0	0.0	0.0
	紙 ・ 出 版 ・ 印 刷	5	20.0	80.0	0.0	20.0
	化 学 ・ プ ラ ス チ ッ ク	14	28.6	71.4	0.0	28.6
	鉄 鋼 ・ 非 鉄 金 属	12	50.0	50.0	0.0	50.0
	金 属 製 品	16	37.5	62.5	0.0	37.5
	一 般 機 械	14	7.1	85.7	7.1	0.0
	電 気 機 械	10	10.0	80.0	10.0	0.0
	そ の 他 の 製 造 業	13	23.1	69.2	7.7	15.4
製造業計	104	24.0	70.2	5.8	18.3	

⑤ 【製品販売価格】

前期と比べた製品販売価格は、値上がり 3.0%、横這 75.2%、値下がり 21.8%となっている。横這が大勢を占めており、総合 D.I は マイナス 18.8P である。

業種別では、値上がり企業は鉄鋼・非鉄金属、金属製品の 2 業種でみられる一方、値下がり企業は 7 つの業種にみられる。食料・飲料、紙・出版・印刷、化学・プラスチックでは全ての企業が横這である。繊維・衣服では横這が増え、D.I のマイナス幅が縮小している。その他の製造業では D.I のマイナス幅が拡大している。

前年同期比では、値上がり 10.9%、横這 53.5%、値下がり 35.6%となっている。総合 D.I はマイナス 24.8P で、D.I のマイナス幅は拡大している。(表 8)

表 8. 製品販売価格

業 種	当期の販売価格は										
	前期に比べ					前年同期に比べ					
	件数	値上	横這	値下	D.I	件数	値上	横這	値下	D.I	
製 造 業	食 料 ・ 飲 料	8	0.0	100.0	0.0	0.0	8	12.5	75.0	12.5	0.0
	繊 維 ・ 衣 服	9	0.0	77.8	22.2	-22.2	8	0.0	50.0	50.0	-50.0
	木 材 ・ 家 具	2	0.0	50.0	50.0	-50.0	2	0.0	50.0	50.0	-50.0
	紙 ・ 出 版 ・ 印 刷	4	0.0	100.0	0.0	0.0	5	0.0	60.0	40.0	-40.0
	化 学 ・ プ ラ ス チ ッ ク	14	0.0	100.0	0.0	0.0	14	7.1	78.6	14.3	-7.1
	鉄 鋼 ・ 非 鉄 金 属	12	16.7	66.7	16.7	0.0	12	41.7	25.0	33.3	8.3
	金 属 製 品	15	6.7	60.0	33.3	-26.7	16	0.0	56.3	43.8	-43.8
	一 般 機 械	14	0.0	64.3	35.7	-35.7	14	7.1	42.9	50.0	-42.9
	電 気 機 械	10	0.0	80.0	20.0	-20.0	9	22.2	55.6	22.2	0.0
	そ の 他 の 製 造 業	13	0.0	61.5	38.5	-38.5	13	7.7	46.2	46.2	-38.5
製造業計	101	3.0	75.2	21.8	-18.8	101	10.9	53.5	35.6	-24.8	

⑥【採算状況】

前期と比べた採算状況は、好転 7.6%、横這 52.4%、悪化 40.0%となっている。総合 D.I は マイナス 32.4P である。

業種別では、好転企業がみられるのは 4 業種にとどまる一方、悪化企業は全業種にみられる。繊維・衣服は 8 割以上が悪化している。紙・出版・印刷は横這が増え、D.I は改善している。化学・プラスチックは D.I がマイナスから 0 になっている。一般機械は D.I のマイナス幅が縮小している。電気機械では、D.I がプラスからマイナスへ転じている。

(表 9)

表 9. 採算状況

業 種	採算状況は 前期に比べ					
	件数	好転	横這	悪化	D.I	
製 造	食 料 ・ 飲 料	8	0.0	62.5	37.5	-37.5
	繊 維 ・ 衣 服	11	0.0	18.2	81.8	-81.8
	木 材 ・ 家 具	2	0.0	50.0	50.0	-50.0
	紙 ・ 出 版 ・ 印 刷	5	0.0	60.0	40.0	-40.0
業	化 学 ・ プ ラ ス チ ッ ク	14	21.4	57.1	21.4	0.0
	鉄 鋼 ・ 非 鉄 金 属	12	0.0	75.0	25.0	-25.0
	金 属 製 品	16	6.3	50.0	43.8	-37.5
	一 般 機 械	14	21.4	35.7	42.9	-21.4
業	電 気 機 械	10	0.0	70.0	30.0	-30.0
	そ の 他 の 製 造 業	13	7.7	53.8	38.5	-30.8
	製 造 業 計	105	7.6	52.4	40.0	-32.4

⑦【資金繰り】

前期と比べた当期の資金繰りは、好転 4.9%、横這 66.0%、悪化 29.1%となっている。総合 D.I は マイナス 24.3P である。

業種別では、繊維・衣服は 9 割が悪化している。木材・家具は横這である。紙・出版・印刷は D.I のマイナス幅が拡大している。化学・プラスチック、鉄鋼・非鉄金属は横這が大多数を占めている。

(表 10)

表 10. 資金繰り

業 種	資金繰りは 前期に比べ					
	件数	好転	横這	悪化	D.I	
製 造	食 料 ・ 飲 料	8	0.0	75.0	25.0	-25.0
	繊 維 ・ 衣 服	10	0.0	10.0	90.0	-90.0
	木 材 ・ 家 具	2	0.0	100.0	0.0	0.0
	紙 ・ 出 版 ・ 印 刷	5	0.0	60.0	40.0	-40.0
業	化 学 ・ プ ラ ス チ ッ ク	14	7.1	85.7	7.1	0.0
	鉄 鋼 ・ 非 鉄 金 属	12	0.0	91.7	8.3	-8.3
	金 属 製 品	16	6.3	68.8	25.0	-18.8
	一 般 機 械	14	7.1	64.3	28.6	-21.4
業	電 気 機 械	9	11.1	77.8	11.1	0.0
	そ の 他 の 製 造 業	13	7.7	46.2	46.2	-38.5
	製 造 業 計	103	4.9	66.0	29.1	-24.3

⑧【受注状況】

前期と比べた当期の受注状況は、増加 23.8%、横這 39.0%、減少 37.1% である。総合 D.I は マイナス 13.3P である。

業種別では、食料・飲料は横這と減少が拮抗している。繊維・衣服では減少企業が 9 割を占めており、D.I のマイナス幅が拡大している。化学・プラスチック、鉄鋼・非鉄金属では増加企業が増え、D.I はマイナスからプラスへ転じている。金属製品は D.I のマイナス幅が拡大している。電気機械は横這企業が半数を占め、D.I はプラスからマイナスへ転じている。

(表 11)

表 11. 受注状況

業種	受注状況は 前期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	
製造業	食料・飲料	8	0.0	50.0	50.0	-50.0
	繊維・衣服	11	0.0	9.1	90.9	-90.9
	木材・家具	2	50.0	0.0	50.0	0.0
	紙・出版・印刷	5	20.0	40.0	40.0	-20.0
	化学・プラスチック	14	42.9	35.7	21.4	21.4
	鉄鋼・非鉄金属	12	41.7	41.7	16.7	25.0
	金属製品	16	6.3	56.3	37.5	-31.3
	一般機械	14	35.7	28.6	35.7	0.0
	電気機械	10	20.0	50.0	30.0	-10.0
	その他の製造業	13	30.8	46.2	23.1	7.7
製造業計	105	23.8	39.0	37.1	-13.3	

⑨【設備投資額】

前年同期と比べた当期の設備投資額は、増加 16.2%、横這 47.5%、減少 36.4% である。総合 D.I は マイナス 20.2P である。

業種別では、食料・飲料は D.I がマイナスからプラスへ転じている。繊維・衣服では横這が増え、D.I のマイナス幅が縮小している。紙・出版・印刷では、前期みられなかった増加企業が当期はみられる。金属製品は減少が 7 割以上を占め、D.I のマイナス幅は拡大している。一般機械は増加企業が増え、D.I のマイナス幅が縮小している。電機機械は前期と変化がない。

(表 12)

表 12. 設備投資額

業種	設備投資額は 前年同期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	
製造業	食料・飲料	8	25.0	62.5	12.5	12.5
	繊維・衣服	8	0.0	37.5	62.5	-62.5
	木材・家具	2	0.0	50.0	50.0	-50.0
	紙・出版・印刷	5	20.0	60.0	20.0	0.0
	化学・プラスチック	14	14.3	50.0	35.7	-21.4
	鉄鋼・非鉄金属	12	25.0	58.3	16.7	8.3
	金属製品	15	6.7	20.0	73.3	-66.7
	一般機械	14	21.4	50.0	28.6	-7.1
	電気機械	8	37.5	25.0	37.5	0.0
	その他の製造業	13	7.7	69.2	23.1	-15.4
製造業計	99	16.2	47.5	36.4	-20.2	

⑩【向こう3カ月の景況】

来期の景気見通しは、好転 15.4%、横這 40.4%、悪化 44.2%となっている。総合 D.I は マイナス 28.8P である。

業種別では、食料・飲料は悪化が大勢を占めているが、前期は皆無であった好転が当期はみられる。繊維・衣服は、悪化が9割を占めている。木材・家具は横這である。鉄鋼・非鉄金属は D.I がプラスからマイナスへ転じている。金属製品は悪化が半数を占め、D.I のマイナス幅が拡大している。電気機械、その他の製造業では、D.I がプラスからマイナスへ転じている。

(表 13)

表 13. 向こう3カ月の景況

業 種	向こう 3カ月の景況					
	件数	好転	横這	悪化	D.I	
製 造 業	食料・飲料	8	12.5	12.5	75.0	-62.5
	繊維・衣服	11	0.0	9.1	90.9	-90.9
	木材・家具	2	0.0	100.0	0.0	0.0
	紙・出版・印刷	5	20.0	60.0	20.0	0.0
	化学・プラスチック	14	21.4	57.1	21.4	0.0
	鉄鋼・非鉄金属	12	25.0	33.3	41.7	-16.7
	金属製品	16	6.3	43.8	50.0	-43.8
	一般機械	14	28.6	42.9	28.6	0.0
	電気機械	9	22.2	33.3	44.4	-22.2
	その他の製造業	13	7.7	53.8	38.5	-30.8
製造業計	104	15.4	40.4	44.2	-28.8	

2. 建設業の景気動向

建設業の売上額は、減少が過半数を占めるものの、D.Iのマイナス幅が縮小している。資材仕入額は、横這が8割以上を占めている。労務費は、横這が大多数を占め、安定している。

工事引合件数は、減少企業が6割以上を占め、改善はみられない。受注単価は値上がり企業が皆無で、値下がり企業が6割近くを占めている。採算状況、資金繰り、受注状況は、前期みられなかった好転企業が少数みられ、D.Iのマイナス幅が僅かに縮小している。

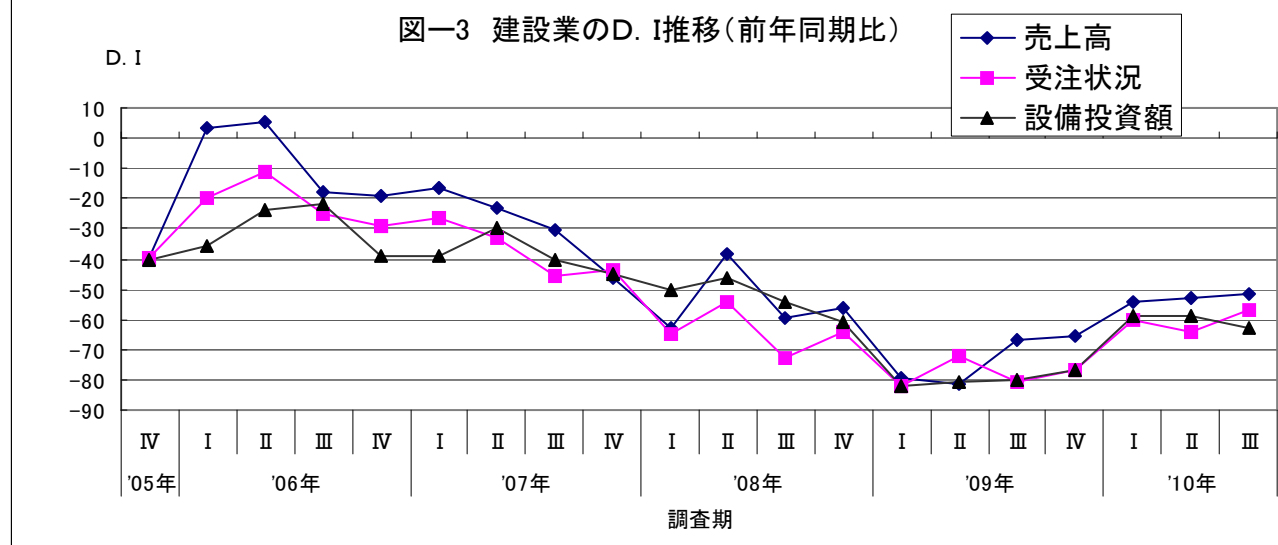
向こう3ヵ月の景況感は、好転企業は僅かにみられるものの、悪化企業が6割近くを占め、依然として厳しい状況である。

前年同期比では、売上額は減少企業が6割以上を占めている。受注状況は、D.Iのマイナス幅が僅かに縮小している。設備投資額は、増加企業は皆無で、減少企業が6割以上を占めている。

(表14、図3)

表 14. 建設業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	37	10.8	32.4	56.8	-45.9
	資材仕入額	37	10.8	81.1	8.1	2.7
	労務費	36	0.0	94.4	5.6	-5.6
	工事引合件数	36	2.8	33.3	63.9	-61.1
	受注単価	37	0.0	40.5	59.5	-59.5
	採算状況	37	2.7	29.7	67.6	-64.9
	資金繰り	37	2.7	51.4	45.9	-43.2
	受注状況	37	5.4	21.6	73.0	-67.6
	向こう3ヵ月の景況	37	2.7	37.8	59.5	-56.8
前年同期比	売上額	37	13.5	21.6	64.9	-51.4
	受注状況	37	8.1	27.0	64.9	-56.8
	設備投資額	35	0.0	37.1	62.9	-62.9



3. 卸売業の景気動向

売上額は、増加企業が増えて減少企業が減り、D.Iのマイナス幅が縮小している。販売先数は、横這企業が7割を占めている。客単価は、横這企業が6割を占め、D.Iのマイナス幅が縮小している。商品仕入価格は、横這が増加している。商品在庫は、9割が適正で、改善している。商品販売価格は、前期皆無であった値上がり企業がみられ、D.Iのマイナス幅が縮小している。採算状況と資金繰りは、前期皆無であった好転企業がみられ、D.Iのマイナス幅が縮小している。荒利益率は、8割の企業が横這である。

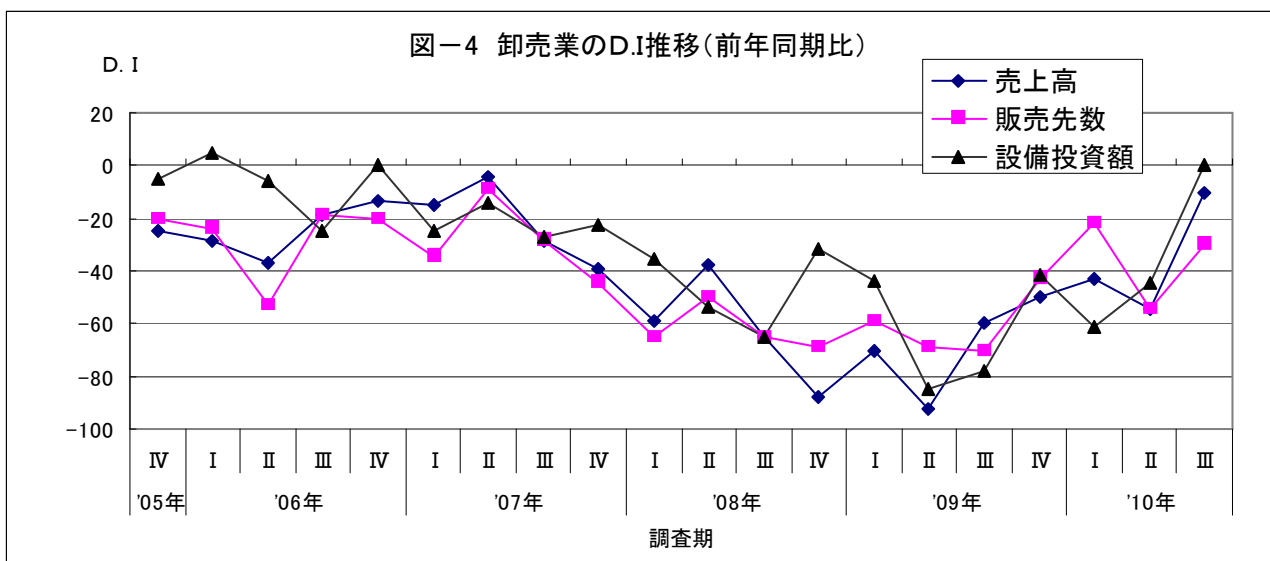
表 15. 卸売業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	10	20.0	40.0	40.0	-20.0
	販売先数	10	10.0	70.0	20.0	-10.0
	客単価	10	0.0	60.0	40.0	-40.0
	商品仕入価格	10	30.0	70.0	0.0	30.0
	商品在庫	10	10.0	90.0	0.0	10.0
	商品販売価格	9	11.1	66.7	22.2	-11.1
	採算状況	10	10.0	60.0	30.0	-20.0
	資金繰り	10	10.0	70.0	20.0	-10.0
	荒利益率	10	0.0	80.0	20.0	-20.0
向こう3カ月の景況	10	0.0	50.0	50.0	-50.0	
前年同期比	売上額	10	30.0	30.0	40.0	-10.0
	販売先数	10	20.0	30.0	50.0	-30.0
	設備投資額	9	22.2	55.6	22.2	0.0

向こう3カ月の景況感は、好転見通しは皆無で、横這と悪化が拮抗している。

前年同期比の売上額と販売先数は、増加企業が増え、減少企業が減り、D.Iのマイナス幅は縮小している。設備投資額は、増加企業が増えて、D.Iは0になっている。

(表15、図4)



4. 小売業の景気動向

小売業の売上額と客数は、減少企業が過半数を占めるものの、D.Iのマイナス幅は縮小している。客単価は、増加企業が僅かに増え、D.Iのマイナス幅は僅かながら縮小している。

商品仕入価格は、横這企業が7割近くを占めている。商品在庫は、過剰傾向がみられる。商品販売価格は、値上がり企業は皆無で、値下がり企業が過半数を占めている。採算状況は、好転企業は僅かで、悪化企業が6割以上を占めている。資金繰りは、悪化企業が半数を超えている。荒利益率は、悪化企業が過半数を占めるものの、D.Iのマイナス幅は縮小している。

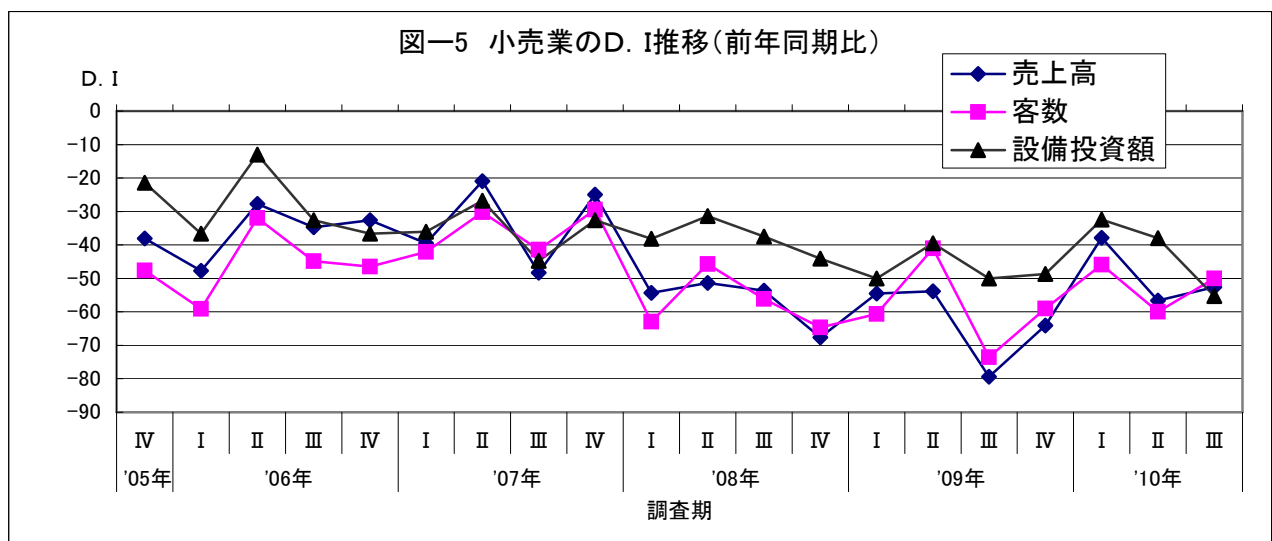
向こう3ヵ月の景況感は、悪化見通しが過半数を占めている。

前年同期比では、売上額は、D.Iのマイナス幅が僅かに縮小している。客数は、減少企業が減り、D.Iのマイナス幅が縮小している。設備投資額は減少企業が増え、D.Iのマイナス幅が拡大している。

(表16、図5)

表 16. 小売業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	38	21.1	23.7	55.3	-34.2
	客数	38	18.4	23.7	57.9	-39.5
	客単価	38	13.2	34.2	52.6	-39.5
	商品仕入価格	38	5.3	68.4	26.3	-21.1
	商品在庫	38	5.3	52.6	42.1	-36.8
	商品販売価格	37	0.0	48.6	51.4	-51.4
	採算状況	38	5.3	31.6	63.2	-57.9
	資金繰り	38	5.3	39.5	55.3	-50.0
	荒利益率	38	7.9	39.5	52.6	-44.7
	向こう3ヵ月の景況	38	7.9	36.8	55.3	-47.4
前年同期比	売上額	38	13.2	21.1	65.8	-52.6
	客数	38	13.2	23.7	63.2	-50.0
	設備投資額	38	2.6	39.5	57.9	-55.3



5. 飲食店の景気動向

飲食店の売上と客数は、前期皆無であった増加企業がみられ、D.Iのマイナス幅が縮小している。

客単価は、横這企業が8割以上を占め、D.Iのマイナス幅は縮小している。

採算状況と資金繰りは、横這企業と悪化企業が拮抗している。荒利益率は悪化企業が大勢を占め、D.Iのマイナス幅は拡大している。

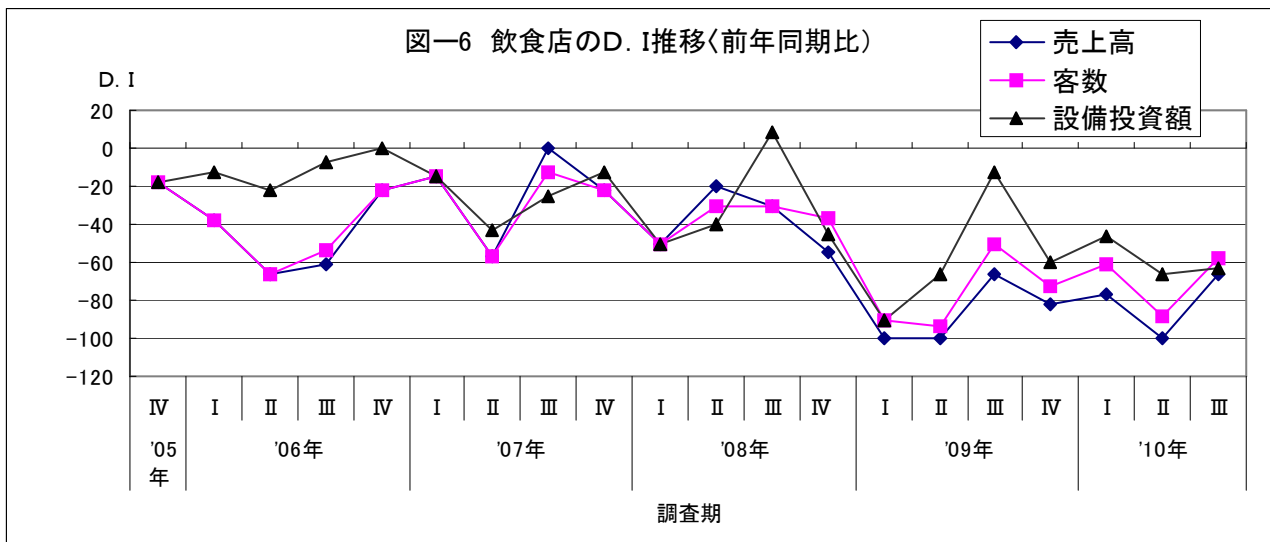
向こう3カ月の景況感は、好転見通しが皆無で、悪化見通しの企業が大勢を占め、厳しい状況である。

表 17. 飲食店の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足値上 好転	適正横這	過剰値下 悪化		
前期比	売上額	12	8.3	66.7	25.0	-16.7
	客数	12	8.3	58.3	33.3	-25.0
	客単価	12	0.0	83.3	16.7	-16.7
	採算状況	12	0.0	50.0	50.0	-50.0
	資金繰り	12	0.0	50.0	50.0	-50.0
	荒利益率	12	0.0	25.0	75.0	-75.0
	向こう3カ月の景況	12	0.0	25.0	75.0	-75.0
前年同期比	売上額	12	0.0	33.3	66.7	-66.7
	客数	12	0.0	41.7	58.3	-58.3
	設備投資額	11	0.0	36.4	63.6	-63.6

前年同期比では、売上額と客数は、横這が増加し、D.Iのマイナス幅が縮小している。設備投資額は、増加企業はみられないものの、D.Iのマイナス幅は僅かに縮小している。

(表17、図6)



6. サービス業の景気動向

サービス業の売上額は、減少企業が過半数を占めている。客数も半数が減少している。客単価はD.Iのマイナス幅が拡大している。採算状況は回復がみられない。資金繰りは横這が6割を占めている。荒利益率はD.Iのマイナス幅が拡大している。

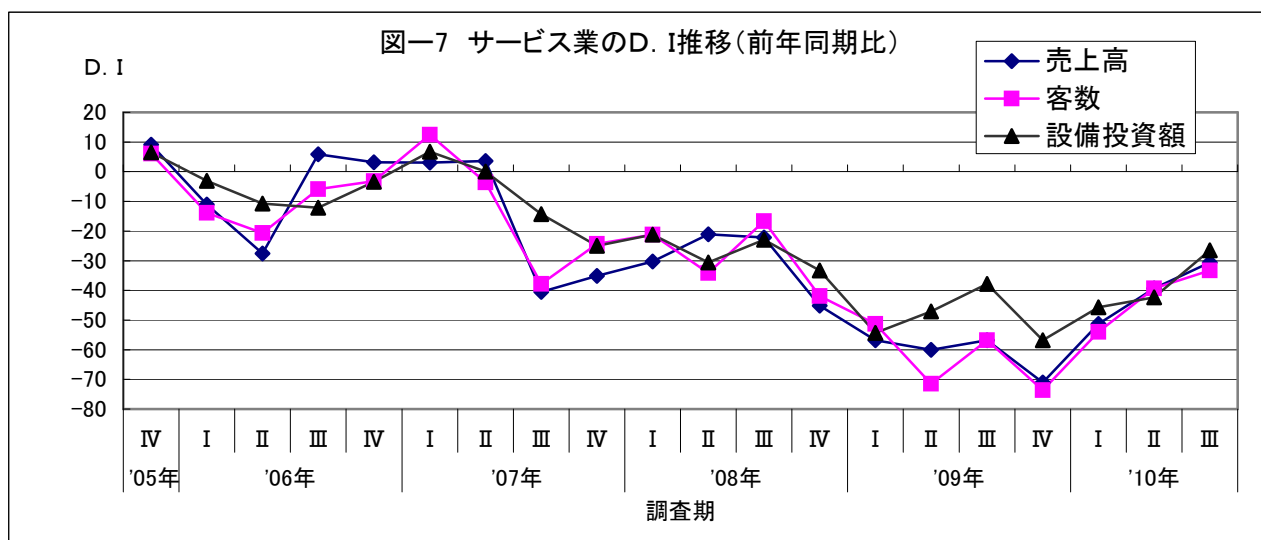
向こう3カ月の景況感は、半数近くが横這となっている。

前年同期比では、売上額と客数は、増加企業が僅かに増え、減少企業が半数以上を占めるものの、D.Iは改善している。設備投資額は、横這企業が過半数を占め、D.Iのマイナス幅は縮小している。

(表18、図7)

表 18. サービス業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足値上 好転	適正横這	過剰値下 悪化		
前期比	売上額	36	19.4	27.8	52.8	-33.3
	客数	36	16.7	33.3	50.0	-33.3
	客単価	36	5.6	55.6	38.9	-33.3
	採算状況	36	8.3	44.4	47.2	-38.9
	資金繰り	35	2.9	60.0	37.1	-34.3
	荒利益率	36	5.6	50.0	44.4	-38.9
	向こう3カ月の景況	36	11.1	47.2	41.7	-30.6
前年同期比	売上額	36	22.2	25.0	52.8	-30.6
	客数	36	16.7	33.3	50.0	-33.3
	設備投資額	34	8.8	55.9	35.3	-26.5



自由意見（原文のまま）

業 種 名	規模	自 由 意 見
総合工事業	B	一向に引合件数が増加するどころか減少し、これから先が心配です。
	C	倒産寸前です。
		最悪の状態ですワ。建設業は今後どうなるのか？設備投資がないので小さい仕事も少なくなっている。物も売れない！
		民間の土木工事は減少。官公庁は同額くじ引きのため受注困難。企業は成り立たない。
F	全般的に受注状況が芳しくない。特に官庁案件の減少について危惧している。	
職別工事業	B	仕事ナイデス。アキマヘンワ。
		受注状況が極端に悪くなり、このままでは開店休業の有様です。景気回復を切に望みます。
設備工事業	B	工事受注状況が悪くなる一方です。
衣服・その他 繊維製造業	A	やはり最近辛い。受け身の立場の仕事なので会社には頑張ってもらいたい。私は自分の仕事の向上しかない。
	B	政府は誰のために政治をしているのか？我々の悲痛な声が聞こえないのか？
	C	商業が輸入に頼り、その結果商品価格と品質を含めた本来の商品価値が下がり、デフレを引き起こし、国内産業が低迷。日本国内の市場が混乱。国内外を問わず、競争の名のもとに商が平和を乱している。
		資金繰り悪化のため、借入をできる方法（公共）を考えてもらいたい。（政府）
パルプ・紙・ 紙加工品製造業	E	紙の国内需要は落ち込んでいる。業界全体としては苦戦が続く。
窯業・土石製品 製造業	A	悪い時期が長すぎるので、心配です。
	F	円高により輸出価格を下げざるを得ない状況で、採算が悪化している。しかし、国内が回復してきており、トータル採算は横ばい。
鉄鋼業	C	まだまだ先が読めません。
非鉄金属製造業	D	設備投資の引き合いが減少、親会社の海外移転の加速など含め、厳しい状況の方向にあり、困っている。
	F	円高を何とかして欲しい。
金属製品製造業	C	円高の影響が中小企業にマイナスとなると思われます。
	E	景気もパツとしないのも政治に元気がないからではないか。
	F	どうにかこうにか…やっているような状況です！！多分日本は沈み行く運命でしょう。素人集団の政治屋ではお先真っ暗です！！
一般機械器具 製造業	E	前年度よりは景気が回復しては来ているが、向こう3ヵ月予想が立てられない。目先の受注増により設備投資および人材投資をしなければならぬ現状である。
		昨年と比べ売上は増加するも先行不透明。ピーク時の60%程度の回復状況。
		有能な技術職の慢性的な人材不足が経営の課題。
F	受注量の変動あり。上昇が止まった。11年度の期待になりそう。学卒や技術者が全く入社ない！！	
電気機械器具 製造業	C	施設の老朽化等の改善に費用をかけられない。人も物も年数にまかせるのみ。

自由意見（原文のまま）

業 種 名	規模	自 由 意 見
繊維・衣服等 卸売業	B	8月より納入先の在庫調整で6ヵ月納入ストップ。年末には資金ショートも。
織物・衣服・身の回り品小売業	B	大変厳しい日々。猛暑の影響で客足が止まり、最悪でした。10月より寒くなり良くなると信じます。
飲食料品小売業	B	何度も申し上げているのですが、将来に希望の持てない状況。「継続は力なり」との格言がありますが、嘘と思うようになりました。
	C	猛暑の影響で売上が少し回復したけど、下期その反動が心配です。設備が老朽化しているけど、だましまし使っています。 SOS。
自動車・自転車小売業	B	9月に入り急に悪くなる。政府の補助金が9月6日で終了したため、その後は大きく落ち込みました。また、取引先の会社や個人商店の方が店を閉めていくのが、最近特に多くなってきました。
	D	補助金がなくなり厳しい状況です。
家具・建具・じゅう器小売業	B	このままでは商売になりませんね。 早期仕入のため、この数ヵ月は、資金繰りがしんどい。
	C	短期資金を貸してくれるところが必要。
一般飲食店	B	気分が減入る世情で、外食をするムードではないのでしょうか。難しい時代になってきました。
		昔の賑わいは、どこへやら……。月末には頭が痛く、恐ろしいかぎり……。人足がなぜか減少。PM6時頃よりまったく止まる。
		値下げ競争の激化の中で野菜等の値上がりなどにより採算状況がより悪くなった。
	C	安売店増加。サバイバル。いつまで耐えられるか？
その他の飲食店	B	この世の中ですので、少しでもパートの人を増やし、週に4時間ぐらいでも働いてもらい、おかずの足しになってもらえればと考えて、一生懸命働いております。食べて、とんとんです。
不動産取引業	B	政界民主党ではムリ。
洗濯・理容・浴場業	B	厳しい。
専門サービス業	B	今までに経験したことのないほど、仕事が減少した。 少し、安定してきたような気がしますが、先行きは、まだ見通しが立ちません。
	C	事業転換考えて、連携していく必要がある。新規事業計画必要。
その他の事業サービス業	F	前を向いて（将来）ふんばるしかない。感謝を忘れず。

規模区分 A = 1～3 人、B = 4～9 人、C = 10～19 人、D = 20～29 人、
E = 30～49 人、F = 50～99 人、G = 100 人以上